

# 道 徳

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年 (調査冊数)
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	道徳 1 1 2 2 1 2 3 1 2 4 1 2 5 1 2 6 1 2	A B 1,050	令和 5 年 (42冊)
17	教育出版	教 出◆	道徳 1 1 3 2 1 3 3 1 3 4 1 3 5 1 3 6 1 3	A B 1,030	
38	光村図書	光 村◆	道徳 1 1 4 2 1 4 3 1 4 4 1 4 5 1 4 6 1 4	B 5 変型 1,092	
116	日本文教出版	日 文◆	道徳 1 1 5・1 1 6 2 1 5・2 1 6 3 1 5・3 1 6 4 1 5・4 1 6 5 1 5・5 1 6 6 1 5・6 1 6	A B 1,356	
208	光文書院	光 文◆	道徳 1 1 7 2 1 7 3 1 7 4 1 7 5 1 7 6 1 7	A B 1,104	
224	Gakken	学 研◆	道徳 1 1 8 2 1 8 3 1 8 4 1 8 5 1 8 6 1 8	A B 948	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

校 種	聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校
児童の実態 観点	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。
内容の取扱い等	1 障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について 2 障害への配慮を要する内容等について	①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの
構成上の工夫	①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの	①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの
	①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの	①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの
		①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各单元等のまとまりが記されていたりするもの ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの

小学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	教出	光村
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	55	57	56
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	48	49	52
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	65	71	63
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	41	32	33
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	83	72	79
	人物の生き方や考え方等から学ぶ教材に取り上げられている人物名及び内容項目	29	67	28
容	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの	61箇所 ①1年「あいさつをすると」では、学校生活の様々な場面を取り上げ、吹き出しに言葉を入れる活動を示してある。(P14) ②3年「耳の聞こえないお母さんへ」では、聴覚障害者の母親を題材に取り上げている。(P112)	45箇所 ①3年「おそろしいゲームいぞん」では、家庭におけるゲーム機器の使用ルールについて取り上げている。(P50) ②4年「人によって態度を変えるのはだめ？」では、障害のある人が安心して生活するための工夫として、手話通訳の写真が示してある。(P91)	49箇所 ①5年「『思いやり』って、何だろう」では、これまでの学習や自分の経験を例に挙げて話し合う活動が示してある。(P164) ②6年「ぼくの名前呼んで」では、主人公と聴覚障害者の両親との葛藤を題材に取り上げている。(P179)
	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの	23箇所 ①6年「ピアノの音が…」では、マンション内での騒音問題を題材としており、取り扱う際に配慮を要する。(P120) ②3年「六べえじいとちよ」では、会話形式で展開する場面があり、発言者を示すなどの支援が必要である。(P116) ③2年「ともだちやもんな、ぼくら」では、方言で表現している箇所があるため、読解の際に説明が必要である。(P72)	25箇所 ①3年「音のこうずい」では、電車内での騒音マナーを題材としており、取り扱う際に配慮を要する。(P148) ②5年「ロレンゾの友達」では、会話形式で展開する場面があり、発言者を示すなどの支援が必要である。(P88) ③6年「そこにぼくはいた」では、方言で表現している箇所があるため、読解の際に説明が必要である。(P140)	30箇所 ①2年「どうしてうまくいかないのかな」では、鍵盤ハーモニカを弾く場面があり、取り扱う際に配慮を要する。(P88) ②1年「あしたはえんそく」では、登場人物が多いため、発言者を示すなどの支援が必要である。(P50) ③4年「花さき山」は、本文の表現が独特で、方言も多用しているため、読解の際に説明が必要である。(P142)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 16ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 18ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 18ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 32文字×14行 6年最後 47文字×19行	1年最初 33文字×14行 6年最後 45文字×18行	1年最初 22文字×13行 6年最後 46文字×17行
	欄外の文字の大きさ	1年 8.5ポイント 6年 10ポイント	1年 なし 6年 8ポイント	1年 なし 6年 7ポイント
	ふりがな	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字の初出に有	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの	①6年「夜空一光の旅」では、夜空の様子を写真と図で示してある。(P128)	①1年「せかいのしぐさ」では、国による仕草の違いをイラストで示してある。(P102)	①3年「きまりのない国」では、決まりがない世界に行った主人公の話を、漫画で示してある。(P94)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	あり	あり

小学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

発行者		日文	光文	学研
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	61	57	59
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	56	57	50
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	75	81	61
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	34	45	39
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	82	93	121
	人物の生き方や考え方等から学ぶ教材に取り上げられている人物名及び内容項目	40	32	61
容	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの	55箇所 ①2年「あふないよ」では、自分を守るために大切なものについて、演じたり話し合ったりして考える活動が示してある。(P64-65) ②5年「ことばのカタチ」では、聴覚障害者の家族を題材に取り上げている。(P64)	39箇所 ①4年「心の温度計」では、自身の生活を「度がすぎないように」するためにできる工夫を考えて書く活動が示してある。(P75) ②5年「こんなマークを知っていますか?」では、聴覚障害に関するマークが示してある。(P41)	28箇所 ①5年「ひみつのグループトーク」では、SNSでの会話のやりとりを題材に取り上げている。(P68) ②4年「ヘレン・ケラー物語」ではろう学校に入学して発声を学ぶなどの聴覚障害の理解に関わる記述がある。(P108)
	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの	27箇所 ①1年「ひむかかると」では、教員が読み札を読んで、かるとりをする場面があり、取り扱う際に配慮を要する。(P104) ②4年「ええことするのは、ええもんや!」では、会話形式で展開する場面があり、発言者を示すなどの支援が必要である。(P55) ③3年「あこがれの人」では、踊りや歌に合わせて入る「あいの手」を取り上げてあり、読解の際に説明が必要である。(P40)	22箇所 ①3年「電話のおじぎ」では、電話でのやりとりがあり、取り扱う際に配慮を要する。(P98) ②2年「さくらの木といっしょに」では、会話形式で展開する場面があり、発言者を示すなどの支援が必要である。(P148) ③1年「すてきなことば『あふたあ ゆう』」では、英語の仮名表記である「あふたあ ゆう」について、説明が必要である。(P76)	24箇所 ①3年「心にひびくかねの音」では、小鳥の歌声に耳を傾ける場面や、教会の鐘が鳴り響く場面があり、取り扱う際に配慮を要する。(P74) ②6年「捨てられたペットたち」では、会話形式で展開する場面があり、発言者を示すなどの支援が必要である。(P24) ③4年「つながっている日本と外国」では、犬の鳴き声の表現が、国によって異なることを扱っているため、読解の際に説明が必要である。(P72)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 18ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 31文字×13行 6年最後 43文字×17行	1年最初 38文字×7行 6年最後 46文字×18行	1年最初 25文字×14行 6年最後 47文字×17行
	欄外の文字の大きさ	1年 10.5ポイント 6年 8ポイント	1年 9.5ポイント 6年 8ポイント	1年 なし 6年 8ポイント
	ふりがな	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有	1年はカタカナ・漢字全て、2及び3年は未習得及び難読漢字、4年以上は、未習得及び難読漢字のページの初出に有	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有
障害の状態に応じた事項、その他	①1年「ふたりのゆうた」では、異なる2通りの生活の様子を時刻表示とともにイラストとで示し、視覚的に比較できるようにしてある。(P12-13)	①6年「棚田と人をつなぐ」ではクラウドファンディングの仕組みについてイラストで視覚的に説明してある。(P76)	①1年「金のおのぎんのおの」では、各登場人物の台詞の上部に、話者のイラストが示してある。(P68)	
参考	国旗・国歌の扱い	あり	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	あり	あり	

小学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		東書	教出	光村
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	55	57	56
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	48	49	52
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	65	71	63
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	41	32	33
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	83	72	79
	人物の生き方や考え方から学ぶ教材に取り上げられている人物名及び内容項目	29	67	28
内容	肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの	39箇所 ①1年「がっこうにはね……」では、学校生活で関わる身近な人を題材として取り上げている。(P18) ②3年「いたいたいのち」では、病気により入院した少女の話を題材として取り上げている。(P68)	46箇所 ①3年「心のごもった給食」では、学校給食の食材を題材として取り上げている。(P136) ②6年「あかはなそえじ」では院内学級を題材として取り上げている。(P113)	36箇所 ①6年「気に入らなかった写真」では、インターネットの利用を題材として取り上げている。(P87) ②4年「見えないしょうがい気づくこと」では、人口関節や義足などを例に、ヘルプカードの役割を題材として取り扱っている。(P141)
	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの	103箇所 ①4年「あなたのやさしさにありがとう」では、気持ちを付箋に書く活動があり、取り扱う際に、配慮を要する。(P110) ②2年「さかあがり できたよ」では、鉄棒の逆上がりを取り上げており、取り扱う際に配慮を要する。(P58) ③5年「ブランコ乗りとピエロ」では、「演じて考えよう」として、登場人物の役割を演じ合う活動があり、取り扱う際に配慮を要する。(P125)	179箇所 ①5年「森の絵」では、児童が衣装や舞台装置を作る場面があり、取り扱う際に配慮を要する。(P76-77) ②1年「がっこうだいすき」では、校庭で長縄跳びや鉄棒をしているイラストが示しており、取り扱う際に配慮を要する。(P6-7) ③4年「守りたい自分のじょうほう」では、話し合い活動があり、取り扱う際に配慮を要する。(P48)	136箇所 ①2年「どきどきしたけど」では、漫画形式のイラストの色調や輪郭が淡く、内容を読み取る際に配慮を要する。(P40-41) ②3年「道夫とぼく」では、サッカーを題材として取り上げてあり、取り扱う際に配慮を要する。(P22) ③5年「わたしは飼育委員」では、校内の委員会活動を題材として取り上げてあり、登場人物の心情を考える際に配慮を要する。(P10)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 16ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 18ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 18ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 32文字×14行 6年最後 47文字×19行	1年最初 33文字×14行 6年最後 45文字×18行	1年最初 22文字×13行 6年最後 46文字×17行
	欄外の文字の大きさ	1年 8.5ポイント 6年 10ポイント	1年 なし 6年 8ポイント	1年 なし 6年 7ポイント
	ふりがな	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字の初出に有	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの	①各単元の本文の後に、「考えよう」として、学習のポイントが枠囲みで示してある。(5年P31など) ②6年「世界遺産 白神山地」では、写真や地図で白神山地の自然の様子を示してある。(P25-27)	①各単元の冒頭に、考えるポイントが吹き出しで示してある。(4年P12など) ②3年「お祭りにこめられている思い」では、本文で紹介している祭りの様子を写真で示してある。(P138-141)	①3年から6年の最初の単元の本文ページ下に、「道徳の学び方」が枠囲みで示してある。(3年P10-11など) ②5年「宇宙から見たもの」では、宇宙から見た地球の姿の写真を、見開きで示してある。(P62-63)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	あり	あり

小学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		日文	光文	学研
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	61	57	59
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	56	57	50
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	75	81	61
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	34	45	39
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	82	93	121
	人物の生き方や考え方から学ぶ教材に取り上げられている人物名及び内容項目	40	32	61
	肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの	44箇所 ①3年「きまりはだれのため？」では、学習用のタブレットパソコンを使う際の約束を題材として取り上げている。(P44) ②5年「友のしょうぞう画」では、難病にかかった友達とのを題材として取り上げている。(P174)	38箇所 ①5年「ふるさと一六年生を送る会」では、送る会で発表する歌の練習を題材として取り上げている。(P134) ②2年「ぼくのゆめ一大前光市さんといっしょに」では、義足のプロダンサーの話を取り上げている。(P70)	35箇所 ①1年「あかるいあいさつ」では、あいさつの場面を題材として取り上げている。(P10) ②5年「電池が切れるまで」では、病氣と闘う少女の詩を題材として取り上げている。(P36)
容	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの	67箇所 ①3年「ふろしき」では、風呂敷でいろいろな物を包む活動があり、取り扱う際に配慮を要する。(P55) ②4年「つくればいいでしょ」では、長距離走を題材として取り上げてあり、取り扱う際に配慮を要する。(P124) ③5年「これって不公平？」では、グループでの話し合い活動があり、取り扱う際に配慮を要する。(P160-161)	80箇所 ①全学年の巻末に「まなびの足あと」として、小さな枠に日付や感想を書く活動があり、取り扱う際に配慮を要する。(1年巻末など) ②3年「四人五脚」では、四人五脚リレーを題材として取り上げてあり、取り扱う際に配慮を要する。(P20) ③6年「修学旅行の自由行動」では、グループでの話し合い活動が題材であり、取り扱う際に配慮を要する。(P36)	67箇所 ①6年「前を向いて」では、児童が歌の発表で指揮をする内容があり、取り扱う際に配慮を要する。(P148) ②5年「いじめをなくすために」では、サッカーをして遊んでいる場面を題材として取り上げてあり、取り扱う際には配慮を要する。(P48) ③2年「およげないりすさん」では、役割演技を通して、グループで話し合う活動があり、取り扱う際に配慮を要する。(P18)
	本文の文字の大きさ	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 18ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント
1ページの基本的な文字数	1年最初 31文字×13行 6年最後 43文字×17行	1年最初 38文字×7行 6年最後 46文字×18行	1年最初 25文字×14行 6年最後 47文字×17行	
欄外の文字の大きさ	1年 10.5ポイント 6年 8ポイント	1年 9.5ポイント 6年 8ポイント	1年 なし 6年 8ポイント	
構成上の工夫	ふりがな	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有	1年はカタカナ・漢字全て、2及び3年は未習得及び難読漢字、4年以上は、未習得及び難読漢字のページの初出に有	1年はカタカナ・漢字全て、2年以上は未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの	①各単元の最後に、学習のポイントが枠囲みで示してある。(2年P7など) ②1年「せかいのおはよう」では、8か国語の「おはよう」の挨拶を各国の子供の写真とともに示してある。(P42-43)	①全学年の巻頭に、考えたり話し合ったりまとめたりする方法が図やイラストとともに示してある。(6年P6-9など) ②1年「につぼんのぎょうじーねんかん」では、12か月の行事の写真を見開きで示してある。(P84-85)	①各単元の最後に、学習のポイントが枠囲みで示してある。(2年P23など) ②4年「未来へ残したい、かけがいのない自然」では、世界自然遺産に登録されている日本の5地域を写真で示してある。(P87)
参考	国旗・国歌の扱い	あり	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	あり	あり